

キラリと光るダイセル製品のお得情報が満載！
キラきら情報通信@ダイセル

Chem-Stationに 記事が掲載されました！



Chem-Stationをご存じでしょうか？

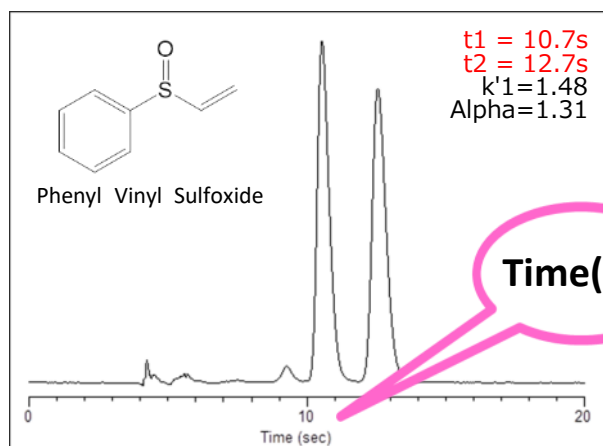
Chem-Station(略称:ケムステ)は国内最大の化学ポータルサイトです。

幅広い化学の専門知識を有する100名超の有志スタッフを擁する体制で運営されており、ウェブに混在する化学情報を整理、集約された化学サイトです。

Chem-Station▶▶ <https://www.chem-station.com/>

【掲載記事】

“秒”で分析 をあたりまえに 一利便性が高まるSFC—



Column: CHIRALPAK® IH-U 3.0 x 50 mm,
Modifier: EtOH (20% isocratic), Flow: 4.0 ml/min,
Temp.: 40 °C, BPR: 10MPa, Inj.: 1 µL

「超臨界流体クロマトグラフィー」、略して「SFC」。
1980年代後半ころに、カラム・装置・移動相の構成
を改良し、適用範囲の狭さや再現性の問題を解決
してきました。生まれ変わったSFCは特に欧米医薬
企業で光学異性体分離に広く用いられ、現在、
HPLCやGCに並ぶクロマトグラフィー法としてよう
く認知されつつあります。

でも“秒”で、って
どういうこと??

SFCの利点とは・・・？詳しくは掲載記事をご覧ください。

掲載記事はこちらから▶▶

<https://www.chem-station.com/blog/2020/01/sfc.html>



知っていますか？ DCpakカラムが使用されている論文



ダイセルのアキラルカラム“DCpakシリーズ”。
DCpakシリーズを使用した論文をご存じでしょうか？きっと皆さまのお役にも立つはず！このキラきら情報通信でもご紹介していきたいと思います。

DCpak PBT

【オープンアクセス】

[Poly\(butylene terephthalate\) based novel achiral stationary phase investigated under supercritical fluid chromatography conditions](#)

J. Chromatogr. A, **1549**(2018), 85-92



DCpak PBTカラムをSFC条件で使用した際の、基本的な特性および分離例をこの論文にて報告しております。
DCpak PBTカラムは、構造が類似した芳香族化合物の分子認識に優れています。様々な有機溶媒をmodifierとして用いてもカラムの性能は変化せず、繰り返し注入試験によるカラムの耐久性も報告しております。

Click



タイトルをクリックして
論文をチェック！

ダイセルワールドニュース

ダイセルグループのArbor Biosciences社 新型コロナウイルスの配列検査用試薬を無償提供

株式会社ダイセルのグループ会社で、分子生物学ツール開発をリードしてきたArbor Biosciences社は、新型コロナウイルス(SARS-CoV-2)の配列検査用試薬*「myBaits Expert 2019-nCoV」をリリースし、2020年2月12日より、新型コロナウイルスについて研究する方々への無償提供を開始いたしました。

*次世代シーケンサーでの配列解析を迅速化するために前処理で用いる配列濃縮パネル

詳細はこちらから▶▶ https://www.daicel.com/news/2020/20200221_211.html

発行元: 株式会社ダイセル CPIカンパニー

〔東京〕 〒108-8230 東京都港区港南2-18-1 JR品川イーストビル

TEL: 03-6711-8222 FAX: 03-6711-8228

〔大阪〕 〒530-0011 大阪市北区大深町3-1 グランフロント大阪タワーB

TEL: 06-7639-7221 FAX: 06-7639-7228

ヘルプデスク フリーダイヤル: 0120-780-104

HP: <https://www.daicelchiral.com/>